

スイカのハウス栽培における有望品種検討

1 目的

パイプハウス栽培での適品種を選定する。

2 方法

1) 供試品種

‘春のだんらん’ (慣行：萩原農場)、‘筑波の香り’ (東洋農事)、‘紅孔雀’ ‘DR-60’ (大和農園)、‘祭ばやし8’ ‘HW-A14’ (萩原農場)

2) 試験区の規模 1区10株 2区制

3) 実証面積 1.8a パイプハウス

4) 耕種概要

- (1) 播種日 2月26日 (穂木) 2月21日 (台木 ‘かちどき2号’)
 (2) 接ぎ木日 3月7日
 (3) 定植日 4月1日
 (4) 栽植密度 株間50cm、畦幅300cm、667株/10a
 (5) 整枝法 3本整枝1果穫り
 (6) 施肥量 N:15.7 P:25.8 K:11.5 (成分量 kg/10a)
 (7) 開花期 5月13~19日
 (8) 収穫期 6月22~26日

肥料名	施肥量(kg/10a)	
	基肥	追肥
セルカ	120	
有機重焼燐	40	
油かす	70	
レオユーキオール8	60	
固形30号	45	
OKF1		11
トミー液肥ブラック		14
ヨーゲンハイパワー		2

3 結果の概要・要約

- 1) 着果期は、‘DR-60’ がやや早かったが、収穫期は慣行区と同等であり、‘紅孔雀’、‘HW-A14’ が遅かった。
 2) 1果重は、‘紅孔雀’、‘DR-60’、‘筑波の香’ が慣行品種の‘春のだんらん’ を上回った。
 3) 収量は、‘紅孔雀’ ‘DR-60’ が最も高く、次いで‘筑波の香’、‘HW-445’、‘春のだんらん’、‘祭ばやし8’であった。
 4) 糖度は、‘祭ばやし8’、‘DR-60’ が慣行品種を上回った。
 以上の結果から、‘DR-60’ が有望品種と考えられる。

4. 具体的数字等

表1 収穫調査

品種名	平均 着果日 月/日	平均 収穫日 月/日	1果重 kg	収量 t/10a	果高 cm	果径 cm	花座径 cm	皮厚 cm	糖度		食味
									中心	皮際	
									Brix %	Brix %	
春のだんらん	5/18	6/22	7.2	4.8	24.6	23.4	1.2	1.2	11.5	9.8	4.3
筑波の香	5/19	6/22	8.4	5.6	25.6	24.7	1.1	1.0	10.9	9.5	3.4
紅孔雀	5/20	6/24	8.9	5.9	25.8	25.7	1.1	0.9	11.0	9.8	2.9
祭ばやし8	5/20	6/23	6.3	4.2	22.8	22.5	0.8	1.3	11.8	9.8	4.2
DR-60	5/17	6/22	8.9	5.9	26.0	25.5	1.2	1.1	11.8	10.2	4.4
HW-A14	5/20	6/24	7.4	4.9	25.1	24.0	1.1	1.1	10.9	9.4	1.8

※1 収量=栽植密度×着果数(1果/株)×1果重で算出

※2 食味: パネラーは20~60代男女30名。供試した6品種中、最も良いもの(6)~悪いもの(1)で評価した。